

17. 野田こども園保護者への「魅力ある学校づくり構想」の検討状況説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成29年（2017年）1月12日（木）17時30分～

○場 所：野田こども園

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>学校跡地の利活用事例としては、どのようなものがあるのか。</p>	<p>今回は学校再編だけではなく、（仮称）南部コラボセンターの整備も合わせて行いたいと考えています。この（仮称）南部コラボセンターは、既存の老朽化している公共施設の機能を集約し、複合型・多機能型施設として整備することとしています。</p> <p>そのため、学校跡地だけではなく、公共施設の跡地の利活用も検討する必要があります。これら学校跡地を含む公共施設の利活用については、市役所の資産活用部が中心となって検討していくこととなります。</p> <p>様々な観点から、庄内地域にとってより良い利活用方法を今後検討していくこととなります。</p>
<p>資料で示されているスケジュール通りに本当に進んでいくのか。この構想案が延ばし延ばしにならないか心配である。</p>	<p>今回の説明内容は、まだ決まったものではなく、現在の検討状況をお示ししているものですが、庄内地域における小規模校の課題、生活・学習課題などについて、教育委員会は喫緊の課題と認識しており、これらの課題解決のために、できるだけ今お示ししているスケジュールのとおりに進めていきたいと考えています。しかし、保護者や地域の皆さまから、ご意見やご指摘をいただきながら、さらに検討を進め、より良い内容にしていきたいと考えており、今後の検討状況によっては、スケジュールも含めて、何かしらの変更等が発生する可能性はあると考えています。</p>
<p>施設一体型の小中一貫校になると、今の学校よりも教員の数が減り、子どもに対して、目が行き届かないのではないかと心配です。</p>	<p>教職員の人数は、小学校、中学校ともに学級数に応じて決められており、その定数に基づいて配置されています。確かに、総数を単純に比較すると、教職員の人数は減るかもしれませんが、施設一体型小中一貫校では、小学校と中学校の教職員が一緒にいますので、中学校の教職員が小学生と、小学校の教職員が中学生と接する機会も多くなります。小学校と中学校の教職員が協力して小中の子どもたちを育む学校にしたいと考えています。</p>
<p>全国に施設一体型の小中一貫校がいくつもあるようですが、どこか参考になっている施設一体型小中一貫校はあるのか。</p>	<p>今回、北校では、中学校2校、小学校3校が集まって一つの施設一体型小中一貫校を開校することを想定しています。</p> <p>小学校だけではなく、複数の中学校も合わせて施設一体型小中一貫校をスタートさせた事例として、近隣では、中学校2校と小学校5校を合わせて開校した、京都市立東山開晴館の事例が特に参考になると考えています。</p>

私は大阪府立高校の教師をしている。以前、勤務校が統廃合するということを経験したが、吸収される学校の教職員や生徒のモチベーションは非常に低くなり、学校運営が大変だった。今回の構想案を受けて、対象校の教職員のモチベーションが下がっていないか心配である。

この「魅力ある学校」づくり構想は、平成 28 年（2016 年）2 月の説明会で初めてお示しし、今回はその後の検討状況について説明していますが、この構想案では当初から「統廃合」という言葉を使っておりません。この構想は、既存の小中学校区を基本とし、小学校 6 校、中学校 3 校を閉校し、新しい小中一貫校を 2 校開校するという内容で「学校再編」と位置付けています。教職員に対しても、これまでこの構想について説明する機会を設けています。新しい学校の開校に向けて、前向きに取り組んでいけるよう、今年度からすでに、先生方と先進事例校へ視察に行ったり、施設一体型小中一貫校を経験された先生をお呼びし、研修を開催したりしております。新しい学校をより良い学校にするために、前向きに準備していけるよう、さまざまな機会を設けていきたいと考えています。